

ネパール・ベニー病院 Myagdi における妊婦の IDD 調査・教育およびヨード検査に関する報告



2013 年 5 月

報告者 Public Health and Infectious Disease Research Center  
(PHIDReC)

Kathmandu, Nepal

委託者 NPO 法人 ネパール・ヨードを支える会  
代表 熱田親憲 Chikayoshi ATSUTA

## 1. 目的

1.1 尿中ヨード排出濃度検査 (UIE-test) によるヨード欠乏症 (IDD) の判別

1.2 妊婦のヨードや IDD に関する認識、態度に関する評価

1.3 妊婦及びそのコミュニティに対する IDD 及びヨード添加塩の教育

## 2. 実施要項

2.1 場所 ベニー病院 Myagdi (ネパール・西部地域)

2.2 対象と活動

- ・妊婦 (来院者) 100 名 (有効サンプル 80 名)

- UIE-test

- ・コミュニティ (3 地区) のリーダーと婦人 48 名

- 面接調査とディスカッション

- ・栄養、IDD 健康教育

## 3. 面接調査結果

3.1 IDD の認知について

殆どの婦人はヨード欠乏症・IDD について認知しているが、Arthunge VDC の婦人、母親は特に詳しかった。

3.2 IDD の病状について

大部分の婦人、母親は IDD について聞いたことはあるが、ヨード欠乏で心臓病、めまい、手や腕の機能不全や奇形になると思っている。SingaVDC のある母親はヨード添加塩の使用で子供のゴイター・甲状腺腫の罹患率が減少しつつあると述べている。彼女の息子も知恵遅れに罹患し、ヨードの重要性を次のように述べている。「私が息子を生むまでは、ヨード添加塩はなかった。そのため息子は知恵遅れにかかり、私はいつも親戚にはヨード添加塩を摂るようにしています」

3.3 ゴイター・甲状腺腫、小人症、機能不全、知恵遅れを持つ家族について

ディスカッショングループの中には家族で罹患している人は誰もいなかった。

しかし、3.2 に述べられている通り、面接グループで知恵遅れの息子をもつ母親が居られた。原因はヨード添加塩の欠乏だと述べている。

3.4 ヨード及びヨード添加塩の認知について

ディスカッショングループの婦人たちは殆ど「ヨード」のことを知っていた。

彼女たちはヨード添加塩でヨードを摂取できると思っている。ヨードの供給源がヨード添加塩であることは、テレビ、ラジオ、女性の地域保健ボランティア、保健婦たちから聞いている婦人が殆どである。

3.5 料理に使用される食塩について

料理に使用される食塩は、殆どの婦人は、こども二人のロゴマークつきのヨー

ド添加塩を使用しているという。

註) ネパールにはいろいろな種類の食塩が商品として市販されている。中でもこども二人のロゴマークの付いたビニール袋に詰められた、ヨードを添加された精塩の品質が一番よく、政府推薦である。この商品はビニール詰めになっているため、水分によるヨードの流出がないため、高品質となっている。因みに食塩はネパール政府専売公社扱いとなっている。

3 グループのディスカッショングループのうち、意識の高い **Arthunge VDC** の母親たちは「ヨード添加塩の使用をテレビ、ラジオ、女性の地域保健ボランティア、保健婦を通じて啓蒙されています」と述べている。また自分の家畜にも使用しているという。(ミルク、卵、食肉を通してヨード摂取が可能)

### 3.6 ヨード添加塩の利益について

3 グループのうち、参加者の一番多い **Pulachaur VDC** の婦人たちは「ヨード添加塩の利益は機能不全や障害のある子供が生まれないこと、ビタミン摂取にある」と述べている。**Arthunge VDC** の婦人たちは「ヨード添加塩でゴイター・甲状腺腫や障害を予防することが出来る」と言っている。**SingaVDC** の婦人たちは「以前にはヨード添加塩がなく、知恵遅れの子供も多かったが、今日ではヨード添加塩の使用で知恵遅れも減少しつつあります」という。

註) 2000年にベニー訪問した時、甲状腺のこぶを「こぶ美人」といって甲状腺腫を運命と諦めていた農村の人々の受け入れ態度と比較すると、隔世の感があるが、喜ばしい傾向である。

### 3.7 ヨード添加塩の家庭での貯蔵について

きちんと密閉された容器の中に入れていた場合が殆どであるという。

### 3.8 妊婦にとってのヨード添加塩の利益

**PulachaurVDC** の母親は「妊婦の健康に良く、新生児の出産効果もより良くなり、児童になっても機能不全や障害、知恵遅れにならないで済む」と述べている。**ArthungeVDC** の母親は「妊娠中にヨード不足を起こすと、軽量の赤ちゃんや知恵遅れの赤ちゃんが生まれる原因になる」という。

註) ディスカッショングループに参加する人は意識の高い母親が多いと思われるが、これだけ正解が言えると、彼女らのオピニオンリーダーぶりが期待できそうだ。

### 3.9 ヨード欠乏症の教育チャンスについて

いままでこのような教育を受けた機会は全くなかったという。しかし何人かの母親は妊娠の検診でANC訪問時に、健康教育でヨード添加塩の使用について教えられたことがあったという。

### 3.10 妊娠検査期間中のANC/PNCでの栄養教育について

ディスカッショングループのほんのわずかの婦人はANC/PNCで訪れた時、栄

養教育を受けたことがあるという。また、ANC の際は出産後 45 日分の摂取量の鉄分の配布を受けたという。ArthungeVDC のほんのわずかの婦人は、野菜にヨード添加塩を使う場合、調理した後に加えるよう提案されたという。Pulchaur, SingaVDC の婦人は、調理中に食塩を使用しなさいと言われたという。

註) 食塩に添加されるヨードの融点は  $113^{\circ}\text{C}$  で昇華性が高いので、調理後の使用の方が無難であろう。

### 3.10 食糧の消費頻度について

大多数の母親は「肉、ミルク製品、魚、卵製品は時々食べますが、ミルク製品はしばしば食べます」という。註) 最貧国とは思えない食生活の改善がみられるので、ヨード欠乏の根絶もそう遠い未来ではなさそうな気がする。

#### グループインタビューと教育風景



村の長老同席のもとでご婦人が集められ、インタビューと教育が行われた。青空集会ができるのも、亜熱帯地帯ならではの特徴である。



教育には母娘づれ、村保健婦など幅広く集められて明るい雰囲気で行われている。これも新しい知識に対する好学心と生活向上心のつよいためであろう。

#### 4. 妊婦・98人のヨード欠乏検査の結果

#### 4.1 妊婦の特徴

- ・平均年齢 22.6 才 (Max 35 才)
- ・教育% 無学 9.2 初等 19.4 中等 35.7 高校以上 35.7
- ・本人職業% 主婦 66.7 学生 16.3
- ・主人の職業% 農業 28.6、外国従業員 28.6、日雇い 21.4
- ・子供数% 0人 52.0、1人 34.7、2人以上 13.3

#### 4.2 妊婦の知識

- ・ヨード添加塩の認知度 72.4%
- ・ヨード添加塩の使用世帯率 100%
- ・妊娠中の鉄分、葉酸の使用率 78.6%

#### 4.3 ヨード欠乏状況

- ・欠乏症 (<150  $\mu$ g ) 20%
- ・標準 (150-249  $\mu$ g) 21.3%
- ・基準以上危険(250-499  $\mu$ g) 58.8%
- ・極危険 (>500  $\mu$ g) 0%

ヨード添加塩の使用率が 100%であっても、欠乏症が 5 人に 1 人の率で存在している。塩の品質、摂取頻度の問題、価格の問題などが想定される。また、基準以上のヨードの取りすぎで危険になりやすい状況になっている人が 6 割もいることに注目。ヨード添加塩の啓蒙運動、PR に踊らされて盲信している傾向が伺える。栄養教育の必要を感じる。

以上